

事業者排出量削減報告書

(宛先) 京都市長 報告者の住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都市南区上鳥羽上瀬子町1-1	平成25年7月21日 報告者の氏名(法人にあっては、名称及び代表者名) 山田化学工業株式会社 代表取締役社長 山田 新平 電話 075-691-4111
--	---

主たる業種	環式中間物・合成染料・有機顔料製造業					細分類番号	1	6	3	4
事業者の区分	京都市地球温暖化対策条例第2条第1項第6号					<input checked="" type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ又はウ <input type="checkbox"/> エ				
計画期間	平成23年4月から平成26年3月まで									
基本方針	エネルギー消費効率の改善をはかり、平成22年度を基準に年1%以上、計画期間中に3%以上のCO2排出量の削減を目指す。									
計画を推進するための体制	エネルギー管理企画推進者を委員長とする「エネルギー委員会」を組織									
温室効果ガスの排出の量	温室効果ガスの排出の量	基準年度 (20~22)年度	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	増減率				
	事業活動に伴う排出の量	3,154.9 トン	2,724.6 トン	2,425.6 トン	2,121.1 トン	-23.2 パーセント				
	評価の対象となる排出の量	3,001.9 トン	2,724.6 トン	2,425.6 トン	2,121.1 トン	-19.3 パーセント				
実績に対する自己評価		平成22年度を基準に、計画期間中に3%以上のCO2排出量の削減を達成した。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度 (22)年度	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	増減率			
	工場	事業活動に伴う排出の量 (製品入庫量)	2.80	2.81	3.63	4.21	26.79 パーセント			
		事業活動に伴う排出の量 ()					パーセント			
実績に対する自己評価		エネルギー消費が大幅に減少し、数値が大きくなった。								
重点的に実施する取組の実施状況		基準年度 (22)年度	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	備考				
		30.0	39.0	50.0	50.0					
具体的な取組及び措置の内容	(23)年度	高気圧ボイラの稼働時間の確保、ボイラ停止後の冷却水の循環を促した。								
	(24)年度	夜間の稼働停止区域に達する高気圧ボイラの閉止を実施。								
	(25)年度	「特設燃焼ガスを削減するため、ボイラ一室の稼働台数を削減した。」								
通勤における自己の自動車等を使用することを控えるために実施した措置	措置の内容	一部駐車場を撤廃し、利用者を夜間通勤者に限定した。								
	上記の措置を実施した結果に対する自己評価	自動車通勤者40人が4人に減少。								
森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量	区 分	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	備考					
	森林の保全及び整備によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン						
	地域産木材の利用によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン						
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン						
	グリーン電力証書等の購入によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン						
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン						
合 計	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン							
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	ライトダウンキャンペーンに参加									
特記事項										

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
 2 「細分類番号」とは、統計法第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の三年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。